

みちのり

江田 秋子さん
1945年10月中国遼寧省丹東市生まれ伊丹市在住
中国名 李蘭秋

学ぶことが生きる希望と力になって!!



江田秋子さん 尼崎市立中央公民館で

中国と北朝鮮との国境を流れる鴨緑江、かつて多くの日本人はこの大河の鉄橋を通り満州に移住した。江田秋子さんはこの鉄橋のある安東（現：丹東市）で日本人の子供として終戦の年の秋（10月）に生まれた。当時この町には日本人が多く住んでいた。敗戦の民である彼等は生き長らえることさえ難しかった。子供の命をつなぐために秋子さんの親は子供を中国人に託すほかなかった。

「お前は私の子だよ！」

翌年1946年の春、子供のない養父母にもらわれた。乳の出ない養母は乳母となつてくれる人を探しまわり育ててくれたと言ふ。そして豊かでない暮らしのなか、学校へも行かせてくれたので勉強が好きになり育つた。近所の子供たちに「日本人の鬼子」と苛められた時には、「お

まえは私の子だよ！」と抱きしめて守ってくれた。先輩が引き合わせてくれた徳華さんと出会う。おおらかで良くていい人だが子供っぽいと思つた。6年後（1970年）に結婚し2人の男の子を生み、働きながら育てた。

李蘭秋から江田秋子へ

日中国交が回復して帰国がはじまった。迷つた末、1986年親子4人で永住帰国した。一時、所沢市帰国者センターに入った。就籍の手続きの際、中国名の李蘭秋から姓は勸められた江田に、名は秋子にしてもらつた。それは「蘭秋」として育ててくれた「養母」と終戦の秋に生んでくれた「実母」二人のお

母さんを忘れないため。しかし祖国は名ばかりの支援の後、日本語も話せないままに現実社会に放り出し、困難な生活が始まった。仕事と家事に追われながらも日本語を勉強したこと。子供たちにも学ぶ生活を受けさせた。だんだんと話せるようになる

と近所の人とも親しくなれた。そして今では息子のお嫁さん（日本人）やその両親とも仲がよく、お正月には沢山の中国料理でもてなすのが楽しみとのこと。孫の保育に忙しいなか日本語と中国語の学習は今も続けている。そして孫に中国語を教えている。

「勉強することは自分をたすけること、幸せになれること」

秋子さんの信念であり、生き方だ。それは子供たち孫たちへと受け継がれている。逆境の歴史の中で生まれ育ちながら、その苦勞をにじませないでいつも笑顔の秋子さんは「大和撫子」であり

「芯の通った強い女性」である。最後に「尼崎日本語教室が好き、先生みんな優しいよ」と言ってくれた。わたしは胸が熱くなつた。（聞き手 吉村清美）

里帰りのシリーズ① 「去年中国へ旅行に行った」

去年の夏主人と中国へ行きました。楽しいことがたくさんありました。一番嬉しかったことは、河北省のおばさんに会えたことです。



黒龍江省羅北県の北岸を流れる黒龍江 対岸はロシア

北京でもハルビンでも羅北県軍川でも併せ30人以上友達が集まってくれました。懐かしいことを話しました。嬉しかったこと、嬉しかったこと、辛かったこと、例えば生徒さんにたくさんプリントを作ったことなどを話しながら乾杯しました。一生は忘れないですよ。悲しいこともありません。私には大好きなお姉さんが亡くなったことです。私より16歳上でやさしいお姉さんでした。私が日本へ帰るためのいろいろな手続きを手伝っていただきました。本当にありがとうございました。（松倉秀子）

ともありません。私には大好きなお姉さんが亡くなったことです。私より16歳上でやさしいお姉さんでした。私が日本へ帰るためのいろいろな手続きを手伝っていただきました。本当にありがとうございました。（松倉秀子）

今平和年代中に、日中両国の人達はこれからますます友好のために頑張りますよ!!

交流の広場

楽しかった新年交流会!

1月23日（土）13時より、尼崎市立中央公民館3階大ホールにて、毎年恒例の新年交流会を行いました。他教室の皆さんやコスモスの会学習者など総勢111人が集まりました。



学習者とスタッフがフラダンスを披露

忙しかったごちそうづくりメニューは、お馴染み水餃子にちらし寿司・唐揚げ・ポテトサラダ・果物盛り合わせ・おつまみと豪華6品。スタッフや学習者はさっそく手分けをして作業開始。調理台や水道、コンロはフル稼働。調理室は熱気充満でした。交流会場では、大勢のお客様に対応できるようにテーブルと椅子

を配置し、音響や照明のチェックも完了。舞台上には南天の投げ入れが飾られ、格調高く華やかで、あたたかい雰囲気を出していました。芸達者がせいぞろい! 今年は各教室に、日頃の活動紹介と一芸披露をしていただきました。歌や踊り、太極拳などいろいろなことに取り組んでおられました。コスモスの会は「文化教室風景」というテーマでフラダンス教室の実演を行いました。会場のみなさんも参加し、「月の夜は」の歌が会場に響きわたりました。ま



白菜をたくさん使いました。交流会の締めくくりはヤンギー踊りでした。



交流会の締めくくりはヤンギー踊りでした

ご出席の尼崎市福祉事務所山崎係長から、「日本語学習だけでなく、体験を伝える活動や楽しい事業等、コスモスの会は中国残留日本人に素晴らしい支援をしている」と労いの言葉をいただきました。（田中いずみ）

お知らせ
中国残留孤児訴訟・神戸地裁判決10周年記念集会在12月4日（日）に「ふたば学舎（神戸市立地域人材支援センター）」で開催されます。準備は進行中ですが、コスモスの会から元原告有志が「朗読劇」上演で参加することにになりました。



神戸地裁判決 2006年12月1日

缤纷绚烂的樱花树下

4月2日天气没有象前日天气预报预期的那样下雨而是晴朗起来我们尼崎教室的24名学员和12名老师一起来到小田南公园一同欣赏樱花。蔷薇组学员的石原春子和大岛香织也协助老师组织了这次赏花活动。大家吃着色香味俱全的赏花盒饭。彼此交换着各自美味的菜肴，“好吃好吃!”的声音不绝于耳。

午餐后学员松仓秀子和刘秀兰先做着示范动作，教大家做太极拳，跳广场舞，大家还一起照了像留念。

牡丹组王玉芝学员说：“这个公园很大，这么多的人进出公园却没有让人感到杂乱差的感觉。一边欣赏花的美丽，闻着花的馨香一边吃着好吃的盒饭，感到非常快乐。还唱歌跳舞玩的非常开心。”大岛学员说：“樱花实在是太美了！和这么多的人一起赏花是最快乐的事，赏花当日真的感觉非常幸福。”大家纷纷写下了各自赏花的各种感想。

赏花参加者全员的笑脸和亲切交谈的身姿都留在我们的脑海中，春光绚烂，那是多么令人难忘的一天。（翻译：石原春子）



爛漫の桜の下で

4月2日、前日の雨が嘘のように晴れ上がった小田南公園で、学習者と家族24名スタッフ12名が参加してお花見が催されました。バラ組石原春子さん、大島香織さんが進行役です。彩り豊かなお花見弁当の昼食。おかずの交換も活発で“おいしい、おいしい”の声が上がりま

した。昼食後松倉秀子さん、劉秋蘭さんをお手本に太極拳をし、広場舞、歌、記念撮影とプログラムは進みました。

牡丹組の王玉芝さんは“公園は広く、大勢の人出ながら混雑した感じはありません。目で花を愛で鼻で香りを楽しみながら弁当を食べました。歌ったりダンスをしたりして心ゆくまで楽しみました”と、大島さんは“わ！桜花がきれいですネ。何よりも多くの人たちとお花見ができたことが嬉しかったです。当日は本当に幸せでした”とそれぞれ感想を寄せてくれました。

参加者全員の笑顔と親しく語り合う姿が心に残る、春爛漫の一日でした。（山本育子）